

### 発言通告書の要旨(一般質問)

質問日	質問者順	議席/氏名	件 名	要 旨
9/7 (金)	1	7 西山彰人	1、市民に寄り添い、市民の意見をどのように反映させるのか、市長の政治姿勢を伺う	(1)永康病院の再建や讃岐造船所跡地の利用、詫間支所の耐震化などへの、市民の意見反映のやり方を伺う。 (2)市民のボランティアを中心に行われる、祭りや、イベント時に、どのように市民に寄り添い、意見反映させるのかを伺う。
	2	22 横山 強	1、讃岐造船跡地について	(1)讃岐造船跡地は当初にぎわい創造事業としての計画は、今後の施策において変更はあるのかを伺う。 (2)創造事業において、当初計画を変更とするなら、新規とする計画を伺う。 (3)讃岐造船跡地の利活用とする、創造事業の進捗と完成時を伺う。
			2、空き施設等の解体に伴う予算のあり方について	(1)学校・空き施設等の解体に関わる当初予算計上が反映されず、調査不足による補正、職員による補正積算見積作成による、増額予算とした詳細を伺う。 (2)空き施設解体計画において、設計、調査、積算見積が乱雑とした予算となっていないか、を伺う。 (3)予算が承認された後、補正額が当初予算と近づくとした解体予算について伺う。 (4)今三豊市の空き施設は大半がアスベストを含む建築工法が取り入れられているのが想定されるのに、当初予算と補正予算に分けて、議会に議決を求めてくる意図を伺う。 (5)空き施設等の解体をする予算が必ず補正でアスベスト問題を理由とした過剰な補正予算になっているが、事前に予算に反映されていない反省点を伺う。 (6)今後、空き施設等解体工事に関わるアスベストを含む建物の的確調査。過剰積算見積にしてはならない、マニュアル作成とした取り組みをしては、を伺う。
	3	5 浜口恭行	1、AI技術の利活用、RPAの導入について	本市が取り組む予定であるAI技術の利活用はどのような分野で、またどのような形で進んでいるのか。 先進自治体では、AI技術を活用し、行財政改革の一環として、民間で進んでいるRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を行政事務に応用する実証実験を実施している自治体もあると聞くが、RPAの導入も含め、今後どのようなAI技術の利活用の展開を予定しているのかを聞く。
	4	3 湯口 新	1、防災・災害対策について	(1)防災マップの配布について (2)自主防災組織について (3)市職員のボランティア派遣について (4)防災ワークショップの開催について
			2、小学生対象スポーツ団体の活動について	(1)気象庁が『一つの災害と認識している』と記者会見した今夏の猛暑。小学生対象スポーツ団体の指導者は練習を実施していいかどうかの難しい判断を迫られた。どんな指導者でも判断しやすいようにガイドラインを作成してはどうか。 (2)武道館の建設について
			3、市のHPとフェイスブック等との連動について	市のHPの更新をわかりやすくするため、フェイスブックやツイッターなどと連動してはどうか。

## 発言通告書の要旨(一般質問)

質問日	質問者順	議席/氏名	件名	要旨
9/7 (金)	5	2 高木 修	1、三豊市版「ランドバンク」の創設について	(1) 市民から、かなりまとまった土地(宅地)の寄付申出案件があり、執行部に確認したが、寄付は一切受け付けていないという説明だった。 (2) 案件によっては、優良物件もあると考えられ、現行方針の見直しが出来ないか。 (3) NPO法人「みとよランドバンク(仮称)」を創設し、空き家・空き地を受け入れ再生させる。担い手は、宅建業者・建設会社・司法書士などの専門家。
			2、道路路側の草刈り・樹木伐採に、民活導入の提案	(1) 夏期になり、道路路側の草刈り・樹木伐採が大きな課題になっているが、なかなか対応が追い付かない。 (2) 意欲のある自治会には作業を任せ、応分の補助金を支払うという仕組みを作れば良いと考えるが、いかがなものか。
9/10 (月)	6	1 近藤 武	1、医師不足について	全国で医師不足が深刻な社会問題となっているが三豊市としてこれからの自治体医療、医師不足をどう考えているのかを問う。
			2、防災・減災の取り組みについて	(1) 市民の防災意識の啓発に取り組むために、今後の防災訓練をどのようにして行うのか。 (2) 家庭内DIG(ディグ)の周知を積極的にしたらどうか。 (3) 感震ブレーカーの設置状況は。
			3、投票率について	(1) 投票率向上の為の新しい取り組みは。 (2) 市内のショッピングセンター等に投票所を設置してみてはどうか。 (3) 公職選挙法改正による選挙運動用ビラ配布解禁に伴う、ビラ作成の公費負担の考えは。
	7	12 丸戸研二	1、農地の荒廃化防止対策について	(1) 農地の荒廃化の推移と現状 農地の荒廃化が止まらない。 (2) 荒廃化対策にどう取り組んできたのか。 どのような効果を得たのか。(対策は十分だったのか。) (3) 今後どう取り組むのか。(実行するのか。)
			2、災害時の避難誘導等について	(1) 避難準備、避難勧告、避難指示などの情報認識について (2) 大人数の場合に避難所はどう構えるのか。 (3) 今後の対応策について ① 自助、共助意識の更なる普及 ② 効果的な防災訓練
			3、待機児童対策について	(1) 待機児童の現状について (2) 待機児童の発生原因は何か。 (3) 解決策をどう講じているのか。 ① 民間施設の誘致 ② 預かり保育の拡充 ③ 保育士確保

## 発言通告書の要旨(一般質問)

質問日	質問者順	議席/氏名	件名	要旨
9/10 (月)	8	15 瀧本文子	1、電子母子手帳について	母子手帳は、妊娠中の母体と胎児、出産時とその後の母子の状況、そして子どもが6歳を迎えるまでを見守る健康記録ツール。電子母子手帳の導入が全国的に進んでいる。健診の結果や成長グラフ、予防接種の履歴はじめ、写真やコメントなども記録でき、今の子育てママたちのライフスタイルにあっている。将来にわたり電子化は必要になる中、三豊市でも取り組んではどうか。
			2、不登校支援について	文科省において、不登校は子ども本人に起因する特有の事情によって起こるものと考えられていたが、近年は「取り巻く環境によっては、どの生徒にも起こること」ととらえる認識に転換されている。そのような中、三豊市において不登校の子ども達に対して、どのような形で指導されているのか、またその受け皿の充実が求められていると思うが、現状と対応、また、課題について伺う。
	9	4 田中達也	1、豪雨災害における避難指示(緊急)の結果について	7月の豪雨災害において、財田川決壊の可能性が高まったことから、豊中町(本山・上高野・桑山地区)に対して「避難指示(緊急)」が発令された。その結果と今後の対応について問う。
			2、アスリートの育成支援について	地元出身のトップアスリートが活躍することは、市民に夢や感動・勇気を与えることとして望まれているが、そこに至る過程では、全国大会・国際大会への出場など、旅費をはじめ多くの負担が生じる。現状三豊市では表敬訪問を受け、一定額の支援を行っているが、充分とは言い難い。より良い成果につながる支援を模索するため、他の自治体との比較も含め、支援に対する考えを問う。
	10	8 水本真奈美	1、子育て支援	(1)安心して出産や子育てができるように、携帯電話、スマートフォン、パソコンから簡単にアクセスでき、妊娠期からの健診、出産後の乳児健診、複雑な予防接種告知、管理、子供の写真や成長記録も付けられ、また三豊市の子育て事業の情報などを発信する子育て支援アプリ導入の考えを伺う。 (2)おたふくかぜ予防接種に公費助成の考えを伺う。
			2、防災・減災対策	(1)自助(耐震、家具転倒防止、避難行動)の取り組み状況と課題 (2)被災者支援システム、県防災情報支援システムを活用した訓練 (3)避難所におけるアレルギー対応について (4)安否確認「我が家は大丈夫!黄色いハンカチ作戦」 (5)ジュニア防災士養成について伺う。
9/11 (火)	11	10 市川洋介	1、AI活用の今後の展開について	(1)東京大学研究室、香川高専との連携について (2)企業との関わり方について (3)今後の展開と目指す地方創生の効果について (4)AI拠点作りの具体的な考え方について
			2、7月豪雨の現状と防災訓練について	(1)7月豪雨の災害状況について (2)防災訓練は今後どのようにしてゆくのか
			3、職員個人所有のスマートフォンの公益利用とインターネットのセキュリティについて	(1)職員に対しての研修は (2)ガイドラインの作成は (3)その後のセキュリティ等の対策について
			4、基金の運用と今後の取り組みについて	(1)現在の基金残高について (2)29年度の運用実績について (3)今後の活用について (4)運用以外の今後の使い道について

## 発言通告書の要旨(一般質問)

質問日	質問者順	議席/氏名	件名	要旨
9/11 (火)	12	17 岩田秀樹	1、ブロック塀の撤去と撤去後に設置するフェンス等に対する補助制度の創設について	大阪北部地震における、学校のブロック塀の緊急安全点検や除去工事が実施されている。学校以外の公共施設のブロック塀の安全性はどの様になっているか。指定管理を行っている施設も同様である。 市内で個人が所有するブロック塀等の除去工事と軽量フェンス等の設置に対する補助制度を安全なまちづくりのために創設しないか。
			2、小中学校の特別教室の空調設備の設置について	普通教室は早く100%設置されている。 しかし、特別教室は設置されておらず今年の夏は大変だったとの声があった。 来年度予算で、夏に工事するのではなく、春休みに工事を行う補正対応はできないのか。休校・廃校のエアコンはなぜ移設しないのか。
			3、高瀬人權福祉センターなど6箇所で開催されている学習指導授業について	小中学校の児童・生徒に対して6箇所で開催されている。教育委員会が補習事業を行っているにもかかわらず、教員の働き方改革と言われているにもかかわらず、この取組を行っているのか。同和加配の取り組みとして行っているのか。
			4、子どもの医療費の無料化年齢高校卒業までに引き上げへ	2006年(平成18年)合併時8月1日より9歳まで乳児医療費窓口無料化、2010年(平成22年)10月1日より中学校卒業まで窓口無料化、2018年度18歳までの医療費助成制度を約1/4の全国約400市町村で実施している。 他に先駆ける子育て支援策を進めるべきではないか。
			5、若者定住促進・地域経済活性化補助金の成果と課題について	開始時に、補助金は長期的に考えれば固定資産税、住民税など税収として市に入ってくると説明していた。住宅建設による経済効果に対し、住宅ローンを組むことによる可処分所得の減少、新築住宅を建設することによる、地域への経済効果は空家住宅の増大など8年過ぎてどうだったのか。
	13	14 金子辰男	1、障害者雇用の実態について	障害者の人達への差別を禁止している障害者雇用促進法では、自治体や企業に一定の割合以上の障害者を雇用するよう義務付けている。実際の三豊市の雇用状況はどうか。また、国の省庁では水増し報告を行っていたと報道があったが、市役所の現状及び市内の実態はどうか。働く意欲を持つ障害者を、健全に雇用している企業、団体にはきちんとした補助をすべきである。不正受給の企業がないか、障害者に対する仕事の配分や、仕事内容が適切か、いじめのような事は発生していないのか、企業内できちんと対応ができているのを確認しているのかも問う。
			2、新元号により期待できる施策について	天皇陛下崩御による元号改正ではなく、天皇陛下が生前退位されることによる改元である。新時代の祝賀ムードと相まって、我が市としても、これを機にできる施策はないのか。市となった今でも、どうしても旧町の時代のままの行事や旧町を主体とする会合がほとんどで市とは名ばかりの感は否めないと思うことも多々ある。この新元号になる機会に、様々な行事を見直し、旧町への配分の補助金も見直す良い機会とするのはいかがかと考えるが、執行部の考えを問う。
			3、水害対策について	近年の異常気象による豪雨災害に対応できていないのではないかと問う。七月の記録的な豪雨で、愛媛県内の二つのダムの放流後に下流の川が氾濫し、住民計9人が死亡。財田川上流の野口ダム放流についても同様なことが想定されると考える。よって放流の検証をすべきでないか。その対応はどう考えているのか。今年は、すでに21号と多数の台風が発生している。想定外では済まされない事態を市は想定して防災対策を整えるべきではないか。また、災害後のごみ処理方法や、大規模な災害が発生した場合の市の補助や対応についても問う。

## 発言通告書の要旨(一般質問)

質問日	質問者順	議席/氏名	件名	要旨
9/11 (火)	14	6 三木秀樹	1、市内で「ひきこもっている」若者を支援する施策を始めては。	市内でひきこもりは450～500人いると思われるが〔28年9月の内閣府調査、香川県の推計から判断して〕、ひきこもりの対策の遅れもあり、「深刻化・長期化」しているといわれている。8050(ハチマルゴウマル)問題もある。三豊市としてひきこもり対策を先進自治体に学んで取り組みを開始してはどうか。市長に聞く。
			2、市内全域のグランドデザインの進捗と「詫間支所」問題を聞く。	詫間支所の「耐震問題」から取壊し方針であった(平成25年;公共施設再配置計画)にもかかわらず、相次ぐ「方針転換」後、今年3月の施政方針では、市内全域のグランドデザインが出来上がった後に、「詫間支所問題」を検討する、が今年の方針だ。 永康病院の耐震問題と同様の引き延ばしをして「責任取れるのか」。市長に聞く。
			3、ICT化のメリットを強調して準備を進めているが、子どもの「心身に悪影響」を及ぼすデメリットの対応を聞く。	小学生は85%を超えてスマホとか、ネット機器を保有し、「規範意識の希薄化、同調意識の拡大」そしてネット依存症も見られる状態の中、ITC化によるデジタル教科書が採用される時代に対応して、個々人がタブレットパソコンをもつ授業が行われる。 情報社会に「生きる力」を養うためとは、真逆の「思考力の低下」「語学力(コミュニケーション力)の低下」「読解力の低下」を指摘する声があるが、三豊市ではその対応を行っているのか。教育長に聞く。